



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第23号

発行日 2015年7月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学 菱の美会館内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
ホームページ http://dousou.ext.saga-u.ac.jp

編集代表者 吉賀 豊司



佐賀大学存続・発展の支援と 支部作りにご協力を

佐賀大学同窓会会長 金丸 安隆 (農学部・S43年卒)

佐賀平野は黄金色の麦秋、ヒバリ鳴き、新緑の季節——。そして、まだ5月というのに30℃を超える真夏日が続いています。同窓生の皆さんにはご健勝のこととお喜び申し上げます。

今、著しい少子化は小学校から大学に到る学校に多くの影響を与えています。全国の出生数は昭和50年（1975年）の約200万人から平成27年（2015年）には約100万人と、40年間に100万人減少しています。佐賀県内でも、中学卒業生は平成元年（1989年）の約14,000人から平成27年（2015）の約9,000人と約5,000人減少し、その10年後の平成37年には7,700人とさらに1,300人減少すると推計されます。そのため佐賀県でも平成に入った頃から小・中学校で統廃合が進められてきました。こうした影響は今後、大学にも及び、全国の大学が今まで通り存続するとは考えられません。国公立系の大学は定員減少や統合、私立系は定員減少か廃校が進むことが予想されます。

佐賀大学の佛淵孝夫学長は在任6年の間に全国に先がけて「大学版IR (Institutional Research)」を導入し、大学組織の再構築と改革を推進されてきました。一例を挙げると、学生の就職率100%達成のため各学部学科の担当者と課題分析と対策について協議されました。また、学長

自ら高校や企業を訪問する「トップ営業」にも励まれています。地方の総合大学である佐賀大学を存続させ、さらに未来に飛躍することを目指してこられた佛淵学長のご尽力は、同窓会としても誠にありがたく感謝に堪えません。

5月23日には農学部の60周年記念式典が盛大に挙行されました。来年は理工、経済学部は50周年を医学部は40周年を迎えます。この歴史を積み上げていくためには佐賀大学の存続と同窓会の継続的な支援が必要だと思います。

現在、卒業生数は56,040人で全国各地のあらゆる分野で活躍されています。誠に喜ばしく、地域社会にとっても、佐賀大学の果たしている役割がいかに大きいかを再認識しています。母校の大学や先生方の教育のお陰であります。

佐賀県内には同窓生が13,000人おられますが、今後も親睦と交流を促進することが、母校の繁栄を支える力になると信じています。同窓会役員会でも、大学の支援組織として支部創設を決定しました。佐賀県内を13地区とし、各地区に各学部から2名世話人を選出し、各地区10名程度の世話人でその地区の支部作りに取り組んでもらえればと思います。近いうちに全体の世話人会を開催する予定です。ご協力の程よろしくお願いいたします。



理事長就任に当たって

理事長 光 富 勝 (農学部・S51年卒)

平成27年度春季定例役員会で指名され、佐賀大学同窓会理事長を務めることになりました。同窓会の充実・発展に貢献できるように、微力ではありますが全力を尽くして務めていきたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

国立大学は、少子化や社会の変化に対応すべく、各大学の強みや特色を生かしたさらなる大学改革が求められており、佐賀大学でも改革プランの作成と実行が進められております。平成25年度に美術館が設置され、経済学部が改組されました。平成28年4月には、現在の文化教育学部が改組され、教育学部と芸術地域デザイン学部が設置されます。さらに農学部と理工学部の改組も検討されています。「地域と共に未来に向けて発展し続ける大学」を目指す佐賀大学が更に充実・発展していくためには同窓生の皆様の支援が不可欠であり、同窓会活動のより一層の活性化が望まれます。

昨年度、同窓会活性化のために庶務、支部強化、学生支援、情報管理、会報発行の5つの専門部会が設置されました。本年度の春季定例役員会において、各専門部会から昨年度の取り組みについて報告ありました。いかに、同窓生に同窓会活動へ参加してもらうか、特に若い会員の参加促進が重要な課題となっています。昨年度は、支部強化の取り組みがなされ、佐賀市役所支部、佐賀大学教職員支部および関西支部が再開されました。今後は、島原支部再開、熊本支部、宮崎支部、長崎支部および佐賀県内支部設立に向けて活動を進めていきますので、同窓生の皆様には、より一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

各学部は今年、来年と節目の年を迎えます。今年5月

23日には、農学部創立60周年記念式典が農学部同窓会協賛のもと佐賀大学で開催され、祝賀会には多くの同窓生、学生が参加しました(写真)。



平成28年度には経済学部と理工学部が創立50周年を、医学部は創立40周年を迎えます。記念事業は同窓生が集う良い機会だと思います。多くの会員、準会員の皆様が記念事業に参加され、同窓会そして大学を大いに盛り上げていただきたいと思います。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



農学部創立60周年記念祝賀会風景
H27. 5. 23 佐賀大学会館

新事務局長あいさつ

本年4月から、佐賀大学同窓会事務局長を務めております江口邦子です。私は、経済学部の卒業生(昭和52年卒)でこれまで楠葉同窓会の理事として同窓会活動にかかわってきましたが、佐賀大学定年退職

事務局長 江 口 邦 子

を機に事務局の一員となりました。同窓生のつながり、また、同窓会と佐賀大学の連携のお役に立ちたいと日々奮闘しているところです。どうぞよろしく願いいたします。

平成27年度春期定例役員会

新役員と事業計画、予算を決定

平成27年度春期定例役員会を4月16日(木)、佐賀大学「菱の実会館」で開催し、平成26年度事業報告・決算報告及び平成27年度事業計画案・予算案を承認した。

I. 平成26年度事業報告

1. 会報発行事業

佐賀大学同窓会報「楠の葉」21・22号発行。

2. 事業活動

1) 支部総会への参加

会長、各同窓会長等が出席

2) 佐賀大学との意見交換会

大学から11名、同窓会から12名参加

3) 佐賀大学校友会へ校友会会費として

3,220,000円納入

4) 単位提供講座

「キャリアデザイン講座」にOB講師2名

5) 就職支援

平成26年11月19日(水)、就職内定者との懇談会

6) 第22回佐賀県青春寮歌祭

平成26年11月15日(土)、20名参加

佐賀大学混声合唱団15名応援参加

7) 開学祭支援事業

第17回本庄地区大学祭、第36回医学部むつごろう祭に資金援助

8) 懇話会(学習会)

平成26年6月12日(木)

第7回 講師 梅崎 正道 氏

平成27年1月15日(木)

第8回 講師 西村雄一郎 氏

II. 平成27年度事業計画

平成27年度事業の継続と充実を図る。

III. 平成26年度決算及び27年度予算(概要)

【単位：千円】

科目	26年度決算	27年度予算
収入の部		
前年度繰越金	7,496	3,635
特会から繰入	0	1,500
収納金	14,322	14,322
雑収入	1	1
合計	21,819	19,458
支出の部		
運営費	6,607	9,555
業務・活動費	9,808	9,400
予備費	1,769	503
合計	18,184	19,458

平成27年度 佐賀大学同窓会役員名簿

役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科
会長		金丸 安隆	農学・43	理事	支部強化	江口 信義	教育・36	理事	会報	江村 正	医学・62
副会長		宮尾 正隆	教育・36	〃	〃	西川 末実	経済・53	〃	〃	中島 道夫	理工・47
〃		江口 洋一	経済・49	〃	〃	江口有一郎	医学・H6	〃	〃	吉賀 豊司	農学・H2
〃		枝國源一郎	医学・H3	〃	〃	白武 義治	農学・51	〃	事務局長	江口 邦子	経済・52
〃		穂屋下 茂	理工・49	〃	学生支援	中島 範子	文教・H13	監事		大庭 敏伸	教育・36
〃		川副 操	農学・44	〃	〃	木塚 徳男	経済・60	〃		福母 祐二	経済・H2
理事長	庶務部長	光富 勝	農学・51	〃	〃	市場 正良	医学・61	〃		松藤 彩	医学・H16
副理事長	会報発行部長	鶴 良樹	教育・37	〃	〃	池上 康之	理工・61	〃		前山 道明	理工・46
〃	情報管理部長	中野哲太郎	経済・48	〃	〃	青木 久生	農学・58	〃		松尾 正紀	農学・43
〃	学生支援部長	佐藤 武	医学・59	〃	情報管理	中村 隆敏	教育・61	顧問		関本 優	文理・31
〃	支部強化部長	椿 忠彦	理工・53	〃	〃	八谷 浩司	経済・61	〃		久間 善郎	文理・37
理事	庶務	堤 公一	教育・H6	〃	〃	古島 智恵	医学・H11				
〃	〃	江口 邦子	経済・52	〃	〃	米満 潔	理工・60				
〃	〃	西村 知久	医学・H4	〃	〃	田中 宗浩	農学・H4				
〃	〃	津留 保生	理工・H1	〃	会報	徳安 和博	教育・H2				
〃	〃	重富 修	農学・59	〃	〃	松尾 和俊	経済・62				

* 庶務→庶務部 支部強化→支部強化部 学生支援→学生支援部 情報管理→情報管理部 会報→会報発行部

平成27年6月現在

佐賀大学と 佐賀大学同窓会との

意見交換会



定例の佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会が、5月14日(木)18:30より、ホテルニューオータニ佐賀において同窓会の主催で開催された。

大学側からは佛淵学長をはじめ理事(副学長)、監事、事務局長、及び各学部長等、計11名の出席があり、同窓会側からは金丸会長、副会長、理事長、副理事長等、12名が出席した。進行は江口同窓会事務局長によって行われた。

はじめに、主催者として金丸会長の挨拶があり、本同窓会の現在の会員数、平成26年度の同窓会及び各支部総会の活動状況について、特に同窓会組織強化のために行っている同窓会の各支部の活動と特色について説明した。また同窓会の基盤強化として佐賀市役所支部の再開など佐賀大学周辺の組織強化が進んでいることを説明した。佛淵学長からは地方創生の流れに沿った大学の改革が着実に進行し、入学志願者数(受験倍率)も高水準で保っている。また平成28年度新学部の発足も決定して、これからは既存の学部とともに卒業生の就職率の高水準での維持と新学部での卒業生の進路の高水準が重要になっていることが挨拶の中で紹介された。

大学、同窓会の双方の出席者の自己紹介が行われ、中島副学長の乾杯の後、和食の料理を楽しみながら、各学部の学部長及び各学部同窓会代表者による近況の紹介が行われた。文化教育学部の教育学部と芸術地域デザイン学部への改編の話や今年度の教員採用数の増加について、経済学部の50周年事業として、「芸術と経済」展での美術館との共同、同窓会との連携でのホームカミングデイ、医学部における医師レベルの世界標準化に伴う国際認証の獲得、農学部では、平成30年の改組へ向けての準備として、農学部の学部本体を継続しつつ、専門分野を超えた学生の教育体制の構築について説明があった。工学系研究科長は全国工学部長会議への出席のため欠席された。

文責 中島 道夫(理工・S47年卒)



佐賀大学史資料室からのお願い

佐賀大学史資料室の設置について

昨年10月、佐賀大学統合10周年記念誌『佐賀大学の物語』を上梓しましたが、その編集過程において、収集した資料の保存や利活用が大きな課題となり、大学内に大学史資料室を設置し、これら本学の歴史に関する重要な資料等の調査や収集に当たることになりました。

つきましては、以下に記載した資料のご恵贈をお願いできる場合は、お手数ですが、担当又は同窓会事務局までお知らせくださるようお願いいたします。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

- ・大学・学部等の記念史・誌、概要、パンフレット、リーフレット、広報誌、手引等
- ・大学・学部等に関する図面や一枚モノ(賞状・感謝状・辞令のような単体の印刷物、あるいはそれらを綴じたもの)
- ・大学・学部等に関する古い印刷物(文集・広報資料・新聞切抜・名簿・要覧・便覧・事務マニュアル等)
- ・その他記念史・誌の作成に有用な資料

担当：佐賀大学総務部総務課(大学史資料室) 宮川 洋

TEL：0952-28-8113(呼)・3116 FAX：0952-28-8118 Mail：miyagawa@cc.saga-u.ac.jp

専門高校における教育事情

～国際的な視野をもったグローバル人材の育成～

文化教育学部附属教育実践総合センター 岡 陽子（教・S53年度卒）



私は昨年度まで佐賀県立牛津高等学校で校長をしておりましたが、縁あって、今年度より母校佐賀大学で仕事をする事となりました。今回、同窓会の貴重な紙面をいただきましたので、佐賀県内の高校生がどのような教育を受けているのか、私が勤務していた専門高校の昨今の様子をご紹介します。

佐賀県立牛津高等学校は、「生活経営科（保育・福祉）」「服飾デザイン科」「フードデザイン科」「食品調理科」の4つの学科をもつ家庭学科のみの学校であり、西日本屈指の家庭科の専門高校です。生活産業に従事する将来のスペシャリストを目指して、基礎・基本の徹底、心と技を磨く指導を行っています。

4学科の中でも「食品調理科」は、卒業と同時に調理師の国家資格が取得できる学科です。食産業に従事する生徒がほぼ100%であり、調理のプロを育てる専門的な指導を徹底させています。目標が明確であるため、生徒は調理の知識・技術の習得に貪欲であり、科目「調理基礎」や「調理」の授業では、緊張感のある意欲に満ちた姿が見られます。栄養士を目指して進学をしても、調理センスに溢れた優れた栄養士を目指すことが容易であることから、就職・進学ともに生徒たちの進路は安定しているといえます。

しかし、食品調理科の将来像をイメージした時、食産業のグローバル化の中で、国際的な視野やコミュニケーション能力をもって地域や国際社会で活躍できる調理師の育成が必要ではないか、もう一歩前に進む必要はないのか…と感じていました。つまり、国際的視野と高い志をもって調理に邁進する職業人の育成です。その対策として、平成24年度から中国上海の職業技術学校との交流をすすめ、同時にフランスへの短期留学システムの導入を模索し始めました。

そのための様々な情報を集める中で、在仏日本大使館や現地サポート事業所の協力を得ることができたのは幸いでした。両者の協力もあって、平成25年9月にリセ・オテルリ校を訪問、12月に国際交流協定を締結できました。当該校は、ホテル科と観光科

をもつ生徒数約700名の職業リセです。ホテルレストランを併設しており、ホテル科では、調理やレストランでのサービス等の授業を行っています。

リセ・オテルリ校の校長先生と何度もやりとりをしながら、具体化した研修内容は次の通りです。



仏；リセ・オテルリ校



◀リセ・オテルリ校での実習の様子

- 派遣期間 3月 約3週間（24日間程度）
- 寮生活、授業料負担なし（協定書締結事項）
- 主な授業内容

- ①調理実習（1日6～8時間、週20時間程度）
- ②フランス語基礎講座
- ③パリ等名所旧跡の見学（ツーリズム科に同行）
- ④パリの日本人レストランでの現場実習

平成25年度、平成26年度の2年間で6名の生徒を派遣しています。語学の壁があるものの、生徒たちは頼もしさを感じるほどに成長して帰ってきます。「ボンジュール、マダム！」と校長室に報告に訪れた彼らの笑顔を思い出すと、高校生の多感な時期に文化の異なる国で学ぶ意義を改めて感じます。

佐賀県教育委員会では、このように専門高校においてもグローバル人材の育成に力を入れており、外国への興味や関心を喚起する事業や留学に関する支援に取り組んでいます。多感な高校生の時期に広い世界を知った彼らがこれからどのように成長していくのか、とても楽しみです。願わくば、これからの佐賀県を牽引する人材となってほしいと大いに期待しています。

経済学部 50周年 三か年記念事業 第3弾 平成27年10月24日(土)「ホームカミングデー」

経済学部が平成28年度に50周年を迎えるに当たり、同学部では昨年度から記念事業を展開しています。今年度は、キャンパスに卒業生をお迎えする企画とし、その概要は以下の予定です。

- ①オープニングセレモニー（13：30～14：00）
- ②学生実態調査発表・イマドキとむかしどきの学生（14：10～15：10）
- ③現役学生と卒業生との交流会（15：30～16：30）
 - ・（卒業後の就職に役立つ）業種別・職種別分科会
 - ・ゼミ別分科会（任意）
- ④キャンパスツアー（15：30～16：30）

分科会に参加されない卒業生には、現役学生がキャンパス各所をご案内します。

- ⑤懇親会（17：00～）

大学会館において、同窓会主催です。

※当懇親会の開催を会報「なんよう101号」にて、16：00とお伝えしていましたが、訂正します。なお、これらの予定は今後の内容決定において変わる可能性があります。正式内容は、懇親会チケット頒布時に再度お知らせします。

良永彌太郎氏(昭和40年入・文理・法)著・冊子「克己、尽力、楽天」のご紹介

上記経済学部が誕生した当時は、高度経済成長のまっ只中で、ミナマタなど公害病の発生に見られるような環境破壊、また炭鉱災害が続発し、こうした社会問題に対応したいわゆる社会法が発展した時期でもあります。学部誕生の翌年発生した佐大紛争116日を目の当りにして、その後、社会法の学生生活を選ばれた同氏は、卒業後九大大学院に進まれ、早稲田大学、熊本大学及び熊本学園大学での教員生活を経て、今年3月退職。現在は、熊本県社会福祉協議会会長。

熊本学園大学退職を前に、今年元日から熊本日日新聞で連載された記事（45回）をまとめた標記冊子には、佐大も含めた各大学の貴重な回顧記録が含まれており、本学同窓会館図書室へのご寄贈を機に、その内容の一部(抜粋)を、以下、ご紹介します。



熊本学園大研究室にて

「私には文理学部の後輩がおりません。文理学部は昭和40（1965）年度末で改組され、経済学部、理工学部、教養部が新たに設置され発足しました。」「学部改組について…、学部長は、文理学部は時代の流れ、社会の要請にそぐわなくなった、就職にも不利であるなどおっしゃったのです。場内は騒然。若手教官の中には「そんな回答では学生がかわいそうだ」と学部長に抗議される方もおられました。」「この改組から2年後、昭和42（1967）年、佐賀大は全国の大学より早く大学闘争に入りました。」「寮執行部学生の処分で学生自治会も大学当局と対峙、スト、バリケード、機動隊導入、大量処分…、眼前に展開する佐大闘争のありようが労働法の対象と重なって。」「佐大闘争は労働運動、特に三井三池争議の影響を相当に受けていたと考えられます。」

「大学院の研究テーマに、労働法関係の中で当時炭坑災害で犠牲者が出るということもありましたし災害補償法を選んで、私は社会保障法への道を歩むことになりました。」

（文：釘本勲S40入）

社会へコミットする小児科医を目指して



佐賀大学医学部 小児科 松尾 宗明 (医学部・医2期)

平成26年12月に小児科教授に就任いたしました松尾宗明です。私は佐賀医科大学2期生で、今年卒業後30年目になります。私は、佐賀県多久市の生まれで、小学2年生の時に佐賀市へ転校し、以後佐賀西高、佐賀医大と大学卒業までずっと佐賀でした。卒業後も、鹿児島、大分にそれぞれ1年、米国レキシントンに2年半滞在した以外は佐賀を離れたことがなく、地元への愛着は人一倍深いものがあります。

当然のことですが、この30年の間に小児医療を取り巻く環境は大きく変わってきました。少子化、医療の進歩・ワクチンの普及などに伴う感染症の減少、気管支喘息などの軽症化、発達障害の増加など疾病構造の変化、患者さんと医療者双方の権利意識の高まりと個人情報保護の問題、女性医師の増加、虐待・不登校など心理・社会的問題を抱えた子どもたちの増加、在宅での重症児の増加などが主なものとしてあげられます。私たち医療サイドもこれらの変化に対応すべく変わってきてはいますが、さらなる変革を迫られています。

現在の小児医療を巡る様々な問題に対処していくためには、病院やクリニックのみでの診療ではもはや不十分で、もっと社会全体へ目を向け、私たちの側から働きかけていく必要があります。子どもたちの病気の治療はもちろんですが、これからは病気や虐待などをいかに予防していくかということが大切

な課題です。そのためには、医療の中での他科や病院・診療所間の連携はもちろん、児童相談所をはじめとした行政機関、幼稚園・学校など教育機関と緊密に連携し、その連携の輪を広げていくことが重要です。

佐賀大学小児科では、文化教育学部と協力して発達障害への対応能力を持った教師の育成プログラムにかかわっており、西九州大学などとの大学コンソーシアムでの保育士、心理士などの養成課程にも参加してきました。虐待予防については、これまでの子育て支援プログラムトリプルPの普及活動に加えて、産科からの切れ目ない子育て支援をめざしたペリネイタルビジット事業の導入を検討しています。虐待などの結果、社会的養護を必要とする子どもたちが増加している問題についても小児科医としてかかわっていきたいと考えています。在宅の重度障がい児については、支える家族のQOLを保つための支援システムの構築が急務です。

診療、教育、研究いずれにおいても一人でできることには限りがあります。私は佐賀大学小児科チームとしてできるだけ多角的な視点を大切にしつつ、“患者さん、子どもたちのために”という共通の立場から教室員一丸となってよりよい医療を目指して頑張っていきたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

卒業生へのメッセージ

— 知能情報システム学科の現況 —

20



知能情報システム学専攻 只木 進一

情報科学科、知能情報システム学科（1997年改組）の卒業生、及び情報科学専攻、知能情報システム学専攻（2001年改組）の修了生の皆様におかれまして、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、ご支援を賜り、心から御礼申し上げます。今回、本会報にて、知能情報システム学科・知能情報システム学専攻の近況を報告する機会を頂きました。

1988年に発足しました情報科学科は、知能情報システム学科への改組を経て、設置より27年が経ちました。設置当初は定員40名でしたが、改組によって定員60名の学科となっています。また、年次進行によって大学院課程を設置しています。

設置当初に在籍されていた先生方の多くが退職あるいは転職され、教員メンバーが大きく入れ替わりました。特に、2013年度と2014年度の末で、設置当初から学科・専攻の教育研究を推進して頂いた教授の先生方が退職され、一つの区切りが来た感があります。その結果、教授のメンバーもすっかり替わり、設立当初の状況を知る者も少なくなりました。教員の研究分野の多様性も、情報を巡る社会の多様なニーズに対応して、大きく広がっています。

情報科学科の設立は、社会の情報化の流れの中で、社会の求める技術者、新しい情報システムの可能性を拓く研究者を輩出することが目的の一つであったと思います。近年の情報システムの重要性から考えて、先見の明のあったことが解ります。

設置から27年を経過し、多くの卒業生・修了生の皆様が、社会に広く活躍の場を得て、広がっています。

その結果、卒業生・修了生の皆様が、リクルートという形で学科・専攻に来学して頂けるだけでなく、

大学が導入する情報システムの納入・開発のパートナーの一員として参加されることも多くなって参りました。卒業生・修了生の皆様とともに、本学の情報システムを構築できることは、本当に幸せなことですし、学科・専攻での教育の成果が目に見える形になったと感じています。

本学科では、2001年度より、日本技術者教育認定機構（JABEE）による教育課程の認定を受け、教育の質の保証と改善を継続して行ってきました。教育の改善は、なかなか成果の見えない活動ですが、継続的に行うことで着実に成果が出ていると感じています。



最後に、私事を少しだけ書くことにいたします。2000年10月から2013年10月まで、学術情報基盤センター（現在の総合情報基盤センター）に所属しておりましたが、2013年秋から工学系研究科に戻って参りました。大学全体の情報システムを見続けたことは、今後の教育・研究にきっと役立つと思います。今後とも、皆様のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

菱実会「総会・懇親会」のお知らせ

日時：平成27年9月12日(土) 17:00～

場所：佐賀大学「菱の実会館」多目的室

出席の際は、氏名、学科名、卒業年度を同窓会事務局までお知らせください。

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp TEL: 0952-23-1253 FAX: 0952-25-5700

祝 農学部創立60周年

吉賀 豊司 (園芸・H2年卒)

1955年(昭和30年)に設置された佐賀大学農学部は今年で創立60周年を迎えた。それを祝うため、5月23日(土)の午後から、農学部主催による60周年記念式典ならびに記念祝賀会がとり行われた。

記念式典では、渡邊啓一農学部長、佛淵孝夫学長の挨拶に引き続き、来賓代表として、佐賀県副知事の牟田香氏、続いて佐賀県農協中央会会長の中野吉実氏からの祝辞があり、農学部同窓会会長の川副操氏から農学部へ記念品贈呈があった。

基調講演として、雑誌の編集や佐賀新聞社で論説委員などを歴任され、食に関する著作もある筒井ガンコ堂氏が「国際化時代の食文化と健康」と題して現在の食に関する問題を挙げ、食文化の見直しを農業県である佐賀から始めようと訴えられた。次いで、佐賀大学農学部OB代表として、児玉豊氏ならびに菅谷俊二氏による「後輩へのメッセージと期待」と題した講演があった。児玉氏は、佐賀大学農学部を2002年に卒業、応用生物科学科修士課程を2004年に修了し、現在は、宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター准教授として活躍されている。2013年度には、日本農学進歩賞ならびに笹川科学研究奨励賞を受賞するなど、その研究は高く評価されている。また、菅谷氏は、2002年に佐賀大学農学部生物生産学科を卒業し、現在は、在学時に創業したソフトウェア会社オプティムの取締役社長である。在学中にビジネスジャパンオープンで「孫正義賞」、2014年には第40回経済界大賞発表でベンチャー経営賞を受賞されている。研究者として、また、経営者として第一線で活躍する農学部卒業生2名の講演に、学生のみならず教員や同窓生にも刺激を受けた人が多かったはずである。

記念式典終了後、大学会館2階で行われた60周年記念祝賀会では、元農学部長で佐賀大学長も務められた佐古宣道氏、また農学部名誉教授の小島孝之氏、渡辺潔氏、村田晃氏に続いて全学同窓会会長の金丸安隆氏からの祝辞の後、農学部後援会会長の鶴池直之氏による乾杯の音頭で始まった。約150名を超える多くの参加があり、盛会のうちに終了した。

研究・教育機関としての佐賀大学農学部のあり方が問われる中、地方大学の農学部としての良さをさらに引き出しながら、これからも佐賀発の研究や成果、出身者の活躍がますます増えて行くことを期待したい。



支部だより

関西支部総会・懇親会 ANSAI

平成27年1月24日(土)正午より、大阪市北区梅田の神仙閣で例会、並びに懇親会を開催しました。御来賓として大学側から、平地経済学部長、全学同窓会長金丸氏、有朋会会長宮尾氏、理工学部副会長穂屋下氏、楠葉副会長長氏、同窓会理事江口氏の6名の方々の御臨席をいただきました。

関西支部例会は平成20年秋以来、不本意ながら7年間の空白がありましたが、同窓会本部、各学部同窓会からの力強い御支援をいただいていたの支部復活にかけての貴重な会合でした。同窓生の変わらぬ熱意と情熱により31名の参加を得、設営時に心配していた静かな落ちこんだ内容を吹っ飛ばす、盛大な活気溢れる会を持つことができました。

冒頭、大学側を代表して平地学部長より発展一途の母校の現状について詳しく御説明があり、続いて全学同窓会の金丸会長より復活を遂げた支部に対する賛辞をいただき、同窓会の現状と関西支部の今後に期待する檄をいただきました。併せて昨年医学部と統合10周年を記念して発刊された「佐賀大学の物語」を全員に贈呈いただき、開校当時と現状の変わり様に参加者全員感銘、今更のように今昔の感を強くした次第でありました。

昭和34年支部結成以来、55年間支部長を務めさせていただいた陶山良夫はこの度総会で引退し、次期

支部長として理工学部化学科昭和47年卒の田中誠氏にバトンを引き継ぎ、併せて補佐役の幹事数名を指名、全員に諮りましたところ、新支部長並びに新幹事の就任が承認されました。本当に長い間お世話になりありがとうございました。新体制の下、関西支部特有の絆の深さ、元気の良さの復活を誓い合った事でした。

会の途中の自己紹介では、在学中のエピソード・今だから言える逸話が飛び出し、笑いの輪が広がり真冬の寒さを吹っ飛ばすあたたかい会場の雰囲気となりました。同窓会本部より贈られた佐賀大学寮歌・学生歌・学歌のDVD鑑賞の後は不知火寮OBの猛者数名による巻頭言の怒鳴り声で始まり、「南に遠く」の歌を歌うというよりわめき、御来賓も参加しての踊りというより老人の徘徊で暴れた後は全員起立して姿勢を正して学生歌「楠の葉の」を斉唱し、関西支部の益々の充実を誓い合って3時間に及んだ例会を終了しました。

今後とも関西支部に対して、益々の御支援・御協力をよろしくお願いします。

支部長 陶山 良夫 (文理・S28卒)



葉隠会 HAGAKUREKAI

今年も葉隠れ会新年会を2月10日(火)JR博多駅筑紫口のホテルクリオコート博多にて開催。

会員数30余名、今回出席は14名、例年になく低調であった。やはり70歳を越え各人の体調不良や奥様の病気等健康上の理由が欠席の最大の理由。特にまた例年出席皆勤組5～6名が欠席となったのが痛い。14～15年前福岡在住で出席していた松本忠雄君(元日立造船理事九州支店長)が大阪より熊本市内へ転宅し久しぶり出席してくれたのが今回の最大の目玉であった。参加者少数ながら久しぶりの再会、全員が感激し嬉しい新年会となりました。今回も写真趣味の鍋島辰男君(元福岡シティ銀行)による集合写真、スナップ写真を記念品とすることができました。小生万年幹事として毎会同窓会事務局から御支援いただき感謝しています。

来年こそ佐大卒業50周年記念同期会を佐賀で開催すると地元の百武英明君(元県議)が提案しています。皆で協力して実現したい。関東・関西の諸兄是非ご参加願いたい。

代表世話人 白石 豊彦 (文理・S41卒)



鹿児島支部総会・懇親会

平成27年1月31日(土)午後6時から、鹿児島市内のホテル「レクストン鹿児島」において、鹿児島県支部の総会及び懇親会が開催された。本部から金丸佐賀大学同窓会会長と4学部同窓会の代表者4名のご参加をいただき、県内各地から駆けつけた支部会員16名(うち女性4名)の出席のもと、再会を喜び語り、楽しい集いとなりました。

総会は、まず支部長の挨拶に引き続いて、本部を代表して金丸同窓会長から支部会開催の祝辞と大学の現況ならびに将来構想について報告がありました。同窓会長による母校の教育環境の発展を感じられる報告に、支部会員一同、感慨を深くした次第です。

懇親会は支部会員最年長の竹下威氏(文理・S29卒)の乾杯で始まりました。鹿児島の食を堪能しつつ、出席者それぞれが学生時代の思い出や、人生の

喜怒哀楽を含めた自己紹介と近況の報告を行い、酒盃を交わしながら歓談し、少人数を忘れるかのようににぎやかな、有意義な懇談会となりました。最後に東京から駆けつけ出席された城戸慰隆氏(理工・H4卒)の一本締めでお開きになりました。さらに恒例により二次会へと足が進みました。

支部長 上田 耕平(文理・S39卒)



佐賀大学広報誌「かちがらす」 33号より

— 統合10周年記念誌 — 『佐賀大学の物語』 刊行



上野 景三 教授

平成26年9月に統合10周年記念誌『佐賀大学の物語』が刊行されました。学内外で注目されている記念誌です。今回、編集委員長を務められた文化教育学部の上野景三教授に編集の経緯や内容についてお尋ねしてみたいと思います。

○どうして刊行することになったのでしょうか。

現在の佐賀大学は、平成15年10月に、それまでの佐賀大学と佐賀医科大学が統合して新「佐賀大学」が設置されました。その半年後の平成16年4月には、国立大学法人になりました。それから10年がたちました。

この10年間に、農学部の改組をはじめ、新しい組織やセンターが設置されました。10周年記念事業として美術館も設置されました。大学教育も大きく変化を遂げています。10年はあつという間です。今、記録しておかないと、大学の歩みがわからなくなるのではないかという思いから企画しました。他の大学では、60年史をまとめているところもありますが、統合10周年に焦点をあてたのは、この記念誌だけだと思います。その意味でも注目される取組みだと思います。

平成25年の美術館の設置にあわせて、まず通史編のみの記念誌を刊行し、一部を修正してその年の卒業生と新入学生に配布しました。1年後の平成26年の9月に部局史編を加え、通史編とあわせて一冊にして刊行しました。学生や保護者の皆さんに、佐賀大学の歩みをぜひ知ってほしいと思います。

▶『佐賀大学の物語』はパソコンで閲覧できます。

<http://www.saga-u.ac.jp/koho/monogatari.pdf>

『YOUNG JAPAN ACTION』 大賞受賞!

農業サークル ForS.



稗田 浩世
ForS.代表
農学部生物環境科2年

プロジェクトは、日本の若者が力を発揮できる環境の創出を行い、若者の豊かな感性を生かし社会的課題を解決することを目的として開催されました。

ForS.は週末、佐賀市富士町にあるForS.の畑で、活動を行っております。元々、そこは耕作放棄地で、もう一度そこで農作物を育てるべく、開墾を行いました。私たちが、富士町の畑で農作業を行ったり、イベントができるのは、地域の方々のご支援ご協力があったからだと感じております。

▶次のような記事も掲載されています。

- 自作のソフトウェアで学生の学習状況を「見える化」
- 脳のアンチエイジングを探る!
- イキイキ佐大生 —グローバルリーダーズ
経済学部 亀山ゼミナール
- 「佐賀大学美術館・正門整備」が「佐賀市景観賞」を受賞

佐賀大学広報誌「かちがらす」は以下で閲覧できます。
<http://www.saga-u.ac.jp/koho/>

恩 師 情 報 ……この一年

定年退職（平成27年3月）

宮島 敦子	文化教育学部	林田 行雄	工学系研究科	廣間 達夫	農学部
中島 道夫	文化教育学部	渡邊 義明	工学系研究科	神田 康三	農学部
増子 貞彦	医学部				

訃 報 謹んでご冥福をお祈りします。

藤 條 純 夫	佐賀大学名誉教授（農学部）	平成26年7月14日
三 苦 至	佐賀大学名誉教授（工学系研究科）	平成26年12月11日
植 松 貞 三	佐賀大学名誉教授（教養部）	平成27年1月21日
鈴 木 圀 典	佐賀大学名誉教授（教育学部）	平成27年3月26日
生 馬 寛 信	佐賀大学名誉教授（文化教育学部）	平成27年4月8日

「第23回佐賀県青春寮歌祭」参加のご案内

- ・日 時 平成27年11月14日(土) 13時00分から17時30分（入場無料）
- ・会 場 佐賀市交流センター「エスプラッツホール」佐賀市白山2-7-1 エスプラッツ3F

奮ってご参加ください!!

キャンパス婚のお誘い

農場での稲刈り体験 & バーベキュー

- 【日 時】平成27年10月17日(土) 9:00～16:00（雨天決行）
- 【対 象】20～40代の独身男女（佐賀大学同窓会員と同窓会員から紹介された方）
- 【定 員】男性15名、女性15名 *先着順
- 【費 用】2,000円（予定）
- 【場 所】佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センター
佐賀県佐賀市久保泉町下和泉 1841 TEL. 0952-98-2245

【申込み・問合せ先】

佐賀大学同窓会事務局（竹下）
 メール：dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
 F A X : 0952-25-5700
 T E L : 0952-23-1253

【申込方法】以下をご記入のうえ、メール又はFAXにて8月31日(月)までに送信してください。

名前（ふりがな） 〒自宅住所 携帯電話番号 性別 勤務先
 PCメールアドレス 生年月日 <同窓会員> 学籍番号又は入学年
 <同窓会員外> 紹介者の学部と名前

同窓会の動き（H27.1～H27.12）

- | | |
|---|----------------------------|
| 1.1 佐大同窓会会報「楠の葉」第22号発行 | (今後の予定) |
| 4.9 佐大同窓会「第1回代表役員会」 | 8.8 宮崎支部発足総会・懇親会／ホテルスカイタワー |
| 16 佐大同窓会「春期定例役員会」／菱の実会館多目的室 | 9.10 佐大同窓会「第3回代表役員会」 |
| 5.14 佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会
／ホテルニューオータニ佐賀 | 18 福岡支部総会・懇親会 |
| 6.11 佐大同窓会「第2回代表役員会」 | 10.8 佐大同窓会「第4回代表役員会」 |
| 7.1 佐大同窓会会報「楠の葉」第23号発行 | 11.7 東海支部総会・懇親会 |
| | 14 第23回佐賀県青春寮歌祭／エスプラッツホール |
| | 12.10 佐大同窓会「第5回代表役員会」 |

☆ご意見メール等募集

会報についてのご意見をいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受け付けております。

☆住所変更等のご連絡のお願い

住所等が変更になられた場合は、必ず同窓会事務局へご連絡ください。 Tel: 0952-23-1253 Fax: 0952-25-5700
 Mail: dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp